



本社：京都市南区西九条東比永城町
75番地 GRAND KYOTO 3F
TEL.:075-693-7107
https://www.ishida.co.jp
グループ従業員数：3,929名(イシダ単
体：1,580名)※2021年6月21日時点
創業：1893年5月
設立：1948年10月
主な事業内容：計量、包装、検査等、こ
れらの技術をベースにした製品の開発と
製造、販売、保守に関わる業務全般。



株式会社イシダ
管理本部 総務人事部人事課
E-mail:ishida@s.axol.jp (全国共通連絡先)

- イシダの募集職種**
- 文系**
 - 総務・経理・人事
 - 企画・マーケティング
 - 営業管理
 - 営業事務
 - 生産管理
 - 法務
 - 理系**
 - 製品開発・設計
 - 営業技術
 - 要素技術研究
 - 品質保証
 - 生産技術
 - 調達エンジニア
 - カスタマーエンジニア
 - 文理**
 - 国内営業
 - 海外営業
 - システムエンジニア
 - 社内SE
 - 営業アシスタント(外勤)
 - 知的財産



社員旅行のときの写真。「現地法人の社
長を経験することで成長できました」。
リーダーシップをより強く意識した。

イシダ・インディア取締役
ふくもと けんじ
福本 健二さん [40歳]
利用した会社のサポート
[大学院派遣制度]
ビジネス・ブレイクスルー大学大学院
MBAコース
立命館大学MOT大学院
テクノロジー・マネジメント研究科



(株)イシダが求める人財はズバリ 自分の成長に貪欲な人です。

1893年創業、計量包装機器メーカー・イシダ。
「食」「医療」「物流」の分野で機器やシステムを手がける世界トップクラスの企業だ。
イシダが求める人財は、成長に貪欲な人。なぜなら、会社の成長は人の成長とともにあるからだ。
働きながら学び、成長し続ける社員2名を紹介しよう。

CASE 1 福本さんの場合

龍谷大学在学中に、スウェーデンに約1年留学したことでグローバル企業に興味をもつようになった福本健二さん。イシダに入社を決めた理由は、「百年企業であること、世界進出をしていること、若いうちから海外で挑戦できることが魅力に映ったからだ」。

入社後は海外事業部門の業務課に配属。売上管理や貿易実務を行った。入社後すぐにでも海外に行きたかった福本さんは「正直、残念な気持ちでした」。しかし「海外で働くには管理業務の知識が必ず必要」、「最高の門番、かつプロフェッショナルになれ」という尊敬する上司や石田社長からの言葉に「長い会社員人生を考えたら、今はインプットのとき」と考えを改める。

その後、アジア地域の子会社支援を担当。そこでは、マーケティングの知識を身につけた。

入社7年目、31歳のときにイシダ・タイランドの子会社に社長として赴任した。念願の海外勤務でうれしい反面、会社経営者としての重責に苦しんだ。イシダの企業理念「三方良し」を胸に、顧客、社員、社会に貢献できる方法を模索。現場に足を運び、現物をみて判断する「三現主義(現場、現物、現実)」を貫き、自分なりの判断基準を構築することができた。「経営戦略の知識はなんとなくあったけれど、体系的に学びを深めたい」と考えた福本さんは会社の教育研修制度を利用。オンラインのビジネススクールMBA(経営学修士)コースを受講し、マネジメントスキルを身につけた。

福本さんはタイからの帰国後、欧米、中東、アフリカの子会社を後方支援する営業課に着任。高付加価値の製品やサービスの提供につなげるべく、今度は立命館大学大学院で技術経営(MOT)を学ぶ。「平日は仕事、土曜日は授業、日曜日は論文作成で忙しい2年間でした。しかし、大学で得た知識を実践で活用できるのは社会人学生の特権」と福本さん。今春からは再び海外赴任でイシダ・インディアに移り、会社経営を担う。さまざまな学びを糧に、福本さんはさらに飛躍できるフィールドへと飛び立つ。

成長する人は やりたい！

自分の「夢」と仕事を両立させている。

CASE 2 涌羅さんの場合

小中高はサッカー部、同志社大学ではポート部に所属し、忙しくも充実した日々を送っていた涌羅陽介さん。学生時代、留学を考えていたが叶わなかった。入社時に「日本の人口は減りつつあるため、今後は海外事業に注力したい」という石田社長の言葉を聞き、自分自身も将来は海外を舞台に仕事したいと考えてようになった。

「海外駐在の夢を叶えるためには、まず国内営業で経験を積みながら勉強を」と、キャリアプランを逆算。比較的時間があった1年目は独自で語学学習に励んだ。その結果、TOEICの

2人に共通していたのは「夢を叶えるためには、自身の成長が必要」という意識だ。イシダでは階層別、部門別、自己研鑽などの教育研修制度が充実しており、内容や習熟度によって会社が費用を負担してくれる。制度を上手に「活用」することで、会社も自分も成長できるのだ。

東日本産機システム部
東産機営業三課
ゆら しょうすけ
涌羅 陽介さん [23歳]
利用した会社のサポート
TOEIC講座
利用予定のサポート
マネジメント講座

